

2018/10/28 関高校模擬国連 企画報告書

作成：中川 慶（模擬国連日吉研究会 OB）



目次

企画実施の経緯	2
企画の構成.....	2
会議経過	4
決議案	5
会議中の様子	7
レビュー・今後に向けて	10

企画実施の経緯

関高校では、2018年度の全模研主催による教育模擬国連において、生徒が多数参加した。そのようにして、自校内における模擬国連企画の開催の機運が高まったなかで、今回、初心者向け企画を開催することとなった。

企画の構成

今回は模擬国連会議の参加経験がない初心者向けの企画になるようにし、概要説明→課題→会議（議題：国連カフェのメニューの決定）→講評の構成とした。

1. 事前課題

本企画において、参加者に以下の事前課題に取り組むように指示した。まず、「模擬国連会議 参加の手引き」を作成し、参加者に読んでもらった。この手引きには、担当国の政策形成の方法（後述）や企画当日における会議の流れ・スケジュールを記載した。この手引きを読むことで、模擬国連会議に参加したことのない参加者においても、事前の政策形成から会議当日に至る一連の流れを理解してもらうことを意図した。

次に、担当国の政策形成に関して、参加者には担当国の基本情報や主要作物の生産高・生産順位を記した「ポジション・ペーパー」を配布した。そのポジション・ペーパーを基に、自国の戦略や主張などを「ポリシー・ペーパー」にまとめてもらった。このポリシー・ペーパーの設問に答えれば、自国の戦略や主張などを検討することができるようになっており、このポリシー・ペーパーによって、参加者は自国の政策形成を行った。

2. 概要説明

企画当日の冒頭において、全体の流れに関する説明を行った。具体的には、以下の通りである。

- 模擬国連活動に関する説明
- 会議の内容（国連カフェについて）
- 会議の流れ（全体交渉・自由交渉・決議案の作成）
- タイムスケジュール

3. 会議

今回の会議においては、「簡易プロシージャ」を採用した。簡易プロシージャにおいては、大使がモーション（全体交渉、個別交渉、決議案の提出）を行わず、議長がモーションを発動することとした。これは、初心者である参加者がプロシージャを一通り理解するのは非常に難しいため、一部を省略しようとしたためである。プロシージャの理解は次回以降の企画に譲り、参加者が会議の中味に関する議論に集中し、議論を深めてもらうことを

第一義とした。

会議は1人1か国の担当（シングル・デリゲート制）で行い、当方と高校生で運営を以下の通り行った。

役職	担当者	業務内容
会議監督	当方	● 企画概要の説明 ● 大使からの質問受付 ● 運営スタッフの統括 ● 議事メモの作成
議長	高校生	● 議事進行（英語） ● 決議案の取りまとめ
副議長	高校生	● 全体交渉（モデレート・コーカス）の仕切り人（ファシリテーター）を務めて、会議の方針の決定、全体の交渉内容の共有 ● マイク回し

会議の議題は、以下の通り「国連カフェのメニューの決定」とした。これは、「ニューヨークの国連本部内に『国連カフェ』を開店させることになり、この会議において、そのメニュー（ドリンク 10 品・フード 10 品）を決定してほしい」と国連広報センター（United Nations Information Center）のから提案があったという想定にした。

種別	内容
議題	「国連カフェのメニューの決定」 ※実在はしない。 (Deciding the menu of United Nations Café)
設定会議	第 73 会期国際連合総会本会議 (73 rd Session of the United Nations General Assembly Plenary Meeting)
論点 1	ドリンクメニュー ● 10 品まで、4 つまでの産地の表示を義務付ける。
論点 2	フードメニュー ● 10 品まで、産地の表示を不要とする。
論点外	● メニュー・産地の日替わり制 ● ドリンク・フードのセットメニュー

ドリンクメニュー10品は産地の表示が4つまで可能であり、フードメニュー10品は産地の表示を不要とした。これは、ドリンクで産地が出せなくとも（国益にならなくても）、産地表示の必要がないフードを提案できれば、国益が達成できるようにしたためである。つまり、参加者の柔軟な創意工夫によって、国益が達成できることを意図した。

また、論点外（アウト・オブ・アジェンダ、今会議で議論できない事項・禁止事項）を「日替わり制」「セットメニュー」とした。これは、「日替わり制」「セットメニュー」によるメニューの増加を意図的に防ごうとしたからである。参加者にはメニューのアイデア出しを積極的に行ってもらいたい一方で、メニューを規定の数に制限して、参加者同士でメニューの議論、ないしは紛糾してもらいたかった。言い換えれば、単なるメニューのアイデア出しの会議ではなく、そのメニューのアイデアをいかにして収斂させていくかを学んでほしかったのである。

4. 講評

ここでは、①国連カフェの店長として、②個人として、それぞれ講評を行った。①の立場では、良かった点と改善すべき（だった）点をそれぞれ述べ、参加者に注意を促した。

会議経過

会議は、議長の開会宣言と出欠確認によって始められ、全体交渉①にて、各国のメニュー案の共有を経て、議論の進め方に関する議論が行われた。ここでは、①肉食や飲酒ができない宗教に配慮すること、②時間帯別にメニューを検討することの 2 つの提案がなされた。議長による多数決の結果、①は可決、②は否決されたため、宗教に配慮したメニューをつくっていくことが決定された。具体的には、①ドリンクメニューにおいては、アルコールを使用したメニューは 5 つまでとすること、②フードメニューについては、主菜 3 品、副菜 4 品、デザート 3 品としたうえで、そのうち、主菜・副菜・デザートそれぞれの 2 品を宗教に配慮したメニューとすることとなった。これを受けて、自由交渉①では、各国大使が活発な議論・交渉を展開し、様々なメニュー案が出されていった。

そのメニュー案について、昼食を挟んで、全体交渉②にて共有した。その後の自由交渉②にて、最終的なメニューとするべく、詰めの協議が行われた。全体交渉③にて、再度、議場に出されているメニューについて共有したが、ドリンク・フードそれぞれに新たにメニューが追加されたこともあり、それぞれが上限の 10 品を超えていた。よって、ドリンク・フードについて、先に決定されたジャンルにしたがい、多数決による絞り込みが行われた。その結果、ドリンク・フードそれぞれ 10 品ずつに絞り込まれ、その最終的なメニューが記載された決議案は、全会一致（コンセンサス）で採択された。こうして、約 4 時間に及んだ会議は、白熱した議論のうちに、無事に終了した。



General Assembly

Distr.: Limited
Original: Japanese

Seventy-third session

Agenda item: Deciding the menu of United Nations Café

Draft Resolution

Sponsors: United Nations Information Center

Signatories:

The General Assembly (国際連合総会は) ,

Recalling that United Nations Café would be built in the headquarter in the United Nations in New York in 72nd session,

第 72 会期において、ニューヨークの国際連合本部内に国連カフェの設置が決定されたことを想起し、

Recalling the concept of United Nations Café as “Multi-Culture and Refresh”

国連カフェのコンセプトを「多文化及びリフレッシュ」とすることを認識し、

1. *Decides* the drink menu of United Nations Café as the following;
ドリンクメニューを以下の通り決定する。

ドリンクメニュー	産地 (4 つまで)
フルーツカクテル	インド、中国、アメリカ、メキシコ
ワイン	スペイン、フランス、イタリア、アルゼンチン
紹興酒	中国、インドネシア、フィリピン、日本
ビール	ドイツ、インド、ケニア
トロピカルジュース	ブラジル、フィリピン、アルゼンチン、インドネシア

ウーロン茶	中国、ケニア、ベトナム、インド
コーヒー	ベトナム、コロンビア、ブラジル、インドネシア
紅茶	インド、中国、スリランカ、ベトナム
アップルショール	ドイツ、中国、トルコ、アメリカ
リフレッシュジュース	ベトナム、インド、スペイン、メキシコ

2. *Decides* the food menu of United Nations Café as the following.

フードメニューを以下のとおり決定する。

フードメニュー
カレー
パエリア
ケバブ
アヒヤコ
レンズ豆のスープ
餃子
シュニフェル
トルコアイス
フルーツタルト
フルーツゼリー

会議中の様子



出席確認

写真では、議長の出席確認に対し、当該大使がプラカードを挙げて応じている。



全体交渉① (モデレートコーカス)

各国大使が自国のメニュー案を発表し、全体共有を行った。



全体交渉① (モデレートコーカス)

今後の議論の進め方について。大使からの提案を多数決によって決めていった。



自由交渉① (アンモデレートコーカス)

先の全体交渉におけるメニュー案共有を踏まえ、各国大使が議場内を自由に動き回り、それぞれ交渉を行っている。

No	メニュー名	提案国
1	(アルコールメニュー 上限:5 現在:2)	
2	フルーツカクテル	インド、中国、アメリカ、メキシコ
3	ワイン	スペイン、フランス、イタリア、アルゼンチン
4	(ノンアルコールメニュー 上限:5 現在:7)	
5	トロピカルジュース	ブラジル、フィリピン、アルゼンチン、インドネシア
6	ミルクティー	エジプト、ケニア、イラン、トルコ
7	ウーロン茶	中国、ケニア、ベトナム、インド
8	コーヒー	ベトナム、コロンビア、ブラジル
9	トルココーヒー	トルコ、ベトナム、コロンビア、インドネシア

全体交渉② (モデレートコーカス)

先の自由交渉で出されたメニューを議場全体で共有した。



自由交渉② (アンモデレートコーカス)

最終的なメニューに絞り込むために、議論・交渉にも熱を帯びていた。(見学者が、大使参加者の間近で見学していた)



全体交渉③

(モデレートコーカス)

最終的にメニュー数の上限の 20 個を超えたため、それぞれのメニューについて、多数決を行い、絞り込まれた。

(写真では、プラカードを挙げて、当該のメニューに賛成の意を表明している)



大使表彰

(優秀大使賞)

積極的な交渉が評価され、表彰された。



大使表彰

(最優秀大使賞)

全体交渉の発言、積極的な交渉、多くのメニューの採用など、総合的に評価され、最優秀大使となった。

レビュー・今後に向けて

今回の企画においては、大使と運営側のそれぞれの参加者において、活発に行動する姿が印象的であった。

まず、大使参加者について、何よりも積極性が目立った。冒頭の全体交渉では、最初に1人が発言をすれば、それが起爆剤となって、次々と発言がなされ、会議全体の枠組みがしっくり形成された。イスラム教国の大使が「宗教に配慮したメニューにすべき」と発言していたが、それは国益を守ろうとしたからであり、まさに「大使」の姿に他ならなかった。自由交渉においても、すべての大使が積極的な議論・交渉を交わしていた。最終的なメニューの絞り込みが近づくにつれ、ますます熱を帯びていき、運営者も見入るほどであった。しかし、自由交渉においては、最終的なメニューの絞り込みまでは完了できず、メニューを1つずつ多数決することになってしまった。これは、多くの大使にとって、悔しい結果となったのではないかとはいえない。それでも、そのようにして完成した決議案は、無事に全会一致（コンセンサス）で採択され、全ての大使の協力の賜物であったといえる。

次に、運営参加者について、初めての運営で緊張し、不慣れな様子も見受けられた。しかし、徐々に慣れていき、議長・副議長として、議場を主導し、まとめあげていった。自由交渉中においても、各国大使の様子をつぶさに観察し、大使表彰の選定材料としていたうえ、議場全体の方向性も見極めており、大使からの質問にも応じていた。会議全体を通して、円滑に進行できたことは、ひとえに運営参加者の努力によるものである。高校内で模擬国連の活動を展開していくとのことで、今後のさらなる活動展開にますます期待したい。

アンケート結果より、多くの参加者が何らかの気付きを得られていたことがわかった。今後の関高校内における模擬国連活動が楽しみである。当方にできることがあれば、ぜひ積極的に取り組んでまいりたい。

以上